平成24年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 シャコ

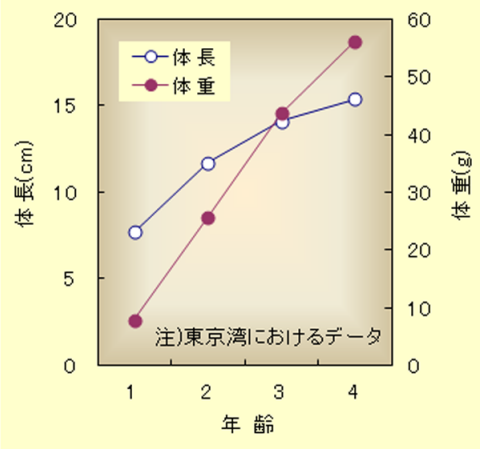
学名 *Oratosquilla oratoria*

系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 増養殖研究所

生物学的特性

寿命: 3歳以上（本系群の詳細は不明）
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5～9月が産卵期で年2回（5月と8月）の産卵ピークが存在、産卵個体は春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島西岸に多い
索餌期・索餌場: 周年湾内全域
食性: 伊勢湾については不明、東京湾では体長に応じて魚類、貝類、多毛類、および甲殻類を捕食する
捕食者: 伊勢湾ではマアナゴによる捕食が確認されている

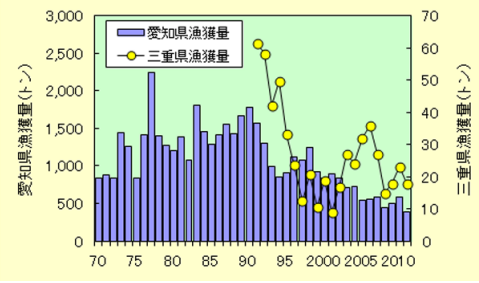


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシャコは、他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺網と定置網で若干漁獲されている。

漁獲の動向

愛知県における1970年以降の漁獲量は390～2,238トンの範囲で変動している。1990年までは数年周期で増減を繰り返しながらも増加傾向にあったが、1999年以降は1,000トン以下の状態で減少が続いている。特に2005年以降の漁獲量は600トン以下の水準となり、2011年には390トンとなった。三重県の漁獲量は、1996年以降は9～36トンの低い水準で推移している。

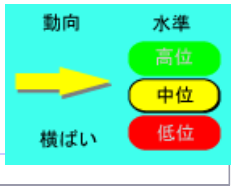


資源評価法

これまで伊勢・三河湾におけるシャコ漁獲の大部分を占める愛知県の漁獲量の推移を主たる判断材料としていたが、漁獲努力量の著しい減少が継続していることから、過去20年間のデータが整った2009年以降は、同県の主要水揚げ港を根拠地とする小型底びき網によるシャコのCPUEを資源量指標値とし、その経年変化を主体として資源状態を判断した。

資源状態

伊勢・三河湾全体での漁獲量は最低の水準にある。資源量指標値は、高水準期の終期と思われる1990年から1999年にかけて減少傾向が続き、2000年以降は低い水準で推移していたが、2006年以降は増加傾向が認められる。過去23年間の資源量指標値の最大値と最小値間を三等分して水準を判断すると、現在の資源は中位水準にある。



管理方策

本系群のシャコ資源は、漁業による管理が困難な環境要因、特に貧酸素水塊の規模拡大の影響による資源の低水準が続いている可能性が指摘されている。漁獲量は1970年以降で最低の水準にあるが、本年の資源評価の結果、資源回復の兆候がみとめられた。本格的な資源回復に向けては、小型シャコの保護と親シャコ量の確保が必要であることから、小型シャコの漁獲を避ける漁具についての検討を継続して行うとともに、産卵期前の親シャコを保護し産卵水準の引き上げを図る方策を継続的に施行する必要がある。

資源評価のまとめ

- 小型底びき網によるシャコCPUEの経年変化等から判断して、伊勢・三河湾系群のシャコ資源は中位水準にある

- 過去5ヶ年のシャコCPUEの推移から、動向は横ばいと判断される

管理方策のまとめ

- 環境要因による資源の低水準が継続していた可能性が指摘されているが、現在は中位水準となり、資源回復の方向にある可能性が示唆された
- 漁具の改良等により、小型個体の保護を積極的に推進する必要がある
- 産卵前の親魚を保護することにより産卵水準の引き上げを図る方策が必要である

執筆者：黒木洋明・渡辺一俊・澁野拓郎

資源評価は毎年更新されます。